

千葉県福祉サービス第三者評価の評価結果
(保育所等)

1 評価機関

名 称	有限会社第一福祉マネジメント
所 在 地	千葉県柏市若柴178-4-148-1ウエスト3F チコルフロア内
評価実施期間	令和5年9月1日～令和5年12月25日

2 受審事業者情報

(1) 基本情報

名 称 (フリガナ)	AIAI NURSERY 妙典一丁目 アイアイ ナーサリー ミヨウデンイッチョウメ		
所 在 地	〒272-0111 千葉県市川市妙典1丁目8-19		
交通手段	東京メトロ東西線妙典駅より徒歩9分		
電 話	047-711-4305	FAX	047-711-4306
ホームページ	https://nursery.aiai-cc.co.jp/facility/myoden1/		
経 営 法 人	AIAI Child Care株式会社		
開設年月日	2020年4月1日		
併設しているサービス	延長保育事業（18時31分～19時30分まで）		

(2) サービス内容

対象地域	千葉県市川市								
定 員	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計		
	6	10	11	11	11	11	60		
敷地面積	459.98㎡			保育面積		371.5㎡			
保育内容	0歳児保育 ○		障害児保育		延長保育 ○		夜間保育		
	休日保育		病後児保育		一時保育		子育て支援		
健康管理	嘱託医による内科健診（年2回） 歯科検診（年2回） 尿検査（年1回） 身体測定（毎月1回）								
食事	業者委託献立による自園調理								
利用時間	7:30～19:30								
休 日	日曜・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）								
地域との交流	保育体験会・子育て相談会の開催/地域小学校との接続連携								
保護者会活動	なし								

(3) 職員（スタッフ）体制

職 員	常勤職員	非常勤、その他	合 計	備 考
		10	13	23
専門職員数	保育士(幼稚園教諭含む)	看護師	栄養士	
	18		1	
	保健師	調理師	その他専門職員	
	2	2		

(4) サービス利用のための情報

利用申込方法	市川市こども政策部 こども施設入園課	
申請窓口開設時間	平日9:00~17:00	
申請時注意事項	『市川市保育施設入所に係る申し込み手続きについて』による	
サービス決定までの時間	4月入園（1次45日、2次10日）/5月~3月入園（8~10日）	
入所相談	施設見学を実施（随時）	
利用料金	市川市の規定に準ずる	
食事料金	利用料金に含む（0歳児~3歳児）副食費4500円/月額	
苦情対応	窓口設置	あり
	第三者委員の設置	あり

3 事業者から利用（希望）者の皆様へ

<p>サービス方針 (理念・基本方針)</p>	<p>『一人でも多くの子どもが人間が生まれながらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造すること』を保育理念とし、「子ども達が現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎」として周りの人と関係を築く子、周りの人の力になれる子、周りの人に応援される子の3つの子ども像を保育方針として掲げています。</p>
<p>特 徴</p>	<p>AIAI NURSERYでは、一人ひとりの子どもに合わせた保育「個別最適化」と「幼児教育」の2本の柱に力をいれ保育の質の向上をめざします。子どもの発達段階に合わせ保育を個別化し、興味・関心に合わせて保育の個別化、遊びの個性化を行います。また就学前の思考教育にも力を入れています。</p>
<p>利用（希望）者 へのPR</p>	<p>「もう一つの家」をコンセプトに、シンプルなデザインと落ち着いた家庭的な雰囲気の中、子どもたちに様々な体験を通しての学びの場を提供していきます。子どもたちが安心して遊び込み、活動を主体的に展開できる保育環境があります。AIAI NURSERYでは数量・図形を中心とした段階的な個別の思考能力により考える力を育むための学習プログラム、モンテッソーリ教育の理念に基づくスイス発の英語学習プログラム、身体を動かすことで、健康な心身を育て、安全な生活を送るための習慣を養う体操プログラムも提供しています。連絡帳アプリやオムツのサブスクリプションなど保護者の負担を軽減するようなサービスも多く提供させて頂いております。</p>

福祉サービス第三者評価総合コメント

特に力を入れて取り組んでいること
子ども一人ひとりにあわせた丁寧な保育に取り組んでいる
「一人でも多くの子どもが人間が生まれながらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造する」という園の保育理念を実現するため、子ども一人ひとりにあわせた丁寧な保育を追求している。園でのプログラムも遊びの一部であるという考えのもと、子どもが笑顔で楽しみながら様々なことを習得し、「もっとやってみよう」という気持ちの芽生えから、興味や関心を広げていけるような保育を展開している。乳児期の保育者との深い愛着関係による信頼感の醸成、幼児期は他者への信頼感を基盤として、友だちとの良好な関係構築や主体性・社会性の基礎を大きく開花できるような保育を重視している。
少人数制保育で職員が一丸となって子ども一人ひとりにあわせた保育に取り組んでいる
訪問調査で最初に「子どものあいさつが自然」という印象を持った。法人の理念として「一人でも多くの子どもが、人間が生まれながらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造する」とあるが、子どもの本来の力を自然に引き出した結果の表れと言えよう。利用者アンケート結果、記述で「職員の笑顔」に対する評価がたいへん高かったが、対人関係のありようを重視する運営が評価されているものとみられる。職員の子どもへの声掛けに関して「子どもから言葉を引き出せるように問いかけるような声掛けを基本とし、指導的な声掛けにならないよう」という法人の一貫した育成方針があり、園の共通認識としており、一人ひとりの子どもに合わせた声掛けで笑顔が自然に出ていることがうかがわれる。
アクティブラーニングの取り組み
子ども達が遊びや生活を通しての学びを経験できるよう、身体機能の向上及び人間力の育成を達成するための運動プログラムを実施しているほか、映像講座プログラムによる英語との触れあいの時間も保育に取り入れている。また、就学前能動的学習の取り組みとして、楽しみながら学べるIQ(いっきゅう)パズルという教材を用意して、数量や図形・標識・文字などへの関心・感覚を身につける取り組みを行っている。子どもの成長・発達に合わせて、幼少期からの経験・体験を充実させることで、「生きる力と考える力」の基礎を培うことが出来るように力を入れて取り組んでいる。
子どもの実体験を重視し年間の季節行事を感染症対応下でもたゆまず実施している
子どもの可能性が園でのさまざまな実体験を経て開花することを重視し、日本の伝統文化や季節行事などに触れる体験を、感染症流行下でも後退することなく継続してきた。七夕やクリスマス・節分・ひな祭りなど、季節感の感じられる伝統行事等を行う際には、子どもたちに情緒豊かな感性を育むことを主眼に、行事の由来や意味などを丁寧に説明し、関心を深めることができるよう配慮している。また、夏祭りや運動会、発表会など、保護者が参加できる行事も参加者を絞って続けてきたが、制限撤廃に努力中である。子どもたちの成長を、保護者らが共に共感し喜び合えるよう努力を継続している。
子どもが健康を維持し快適に過ごせるように衛生管理に力を入れて取り組んでいる
複数の事業所を運営する法人として、衛生管理、設備維持等に関するマニュアルも充実している。子どもが過ごす場所の衛生管理も、施設建設時から全保育室に、加湿器、空気清浄機、エアコンや冬季は床暖房設備することが決められている。運用もマニュアルに従って室温や湿度の設定を行い、室温だけでなく湿度の維持も含めて適切な居住衛生環境を創出している。ウイルスの活性度を下げるにはある程度以上の湿度保持が効果的で、特筆しておきたい。消毒等の感染予防対策では、保育室及び共用部は次亜塩素酸消毒液を使用して毎日消毒作業を行う。子どもたちが使う玩具、とりわけ乳児に関しては口に入れても大丈夫なように、消毒の後の除去も含めた十分な衛生管理を行っている。

さらに取り組みが望まれるところ

地域の子育てに関する貴重な社会資源となることが望まれる

地域はマンション開発などで急速に乳幼児人口が増えた地域であり、古くからのコミュニティはあまり機能していない。また、地域の子育て世帯と流入してきた住民が混在しており、お互いの交流は疎い傾向がある。園周辺も、大きな河川や交通の激しい街道により交流が分断されがちな環境であり、園としても地域連携に努力が求められる地域であることは自覚している。そうした保護者らが幅広く参加できる「保育体験・子育て相談会」を定期的で開催し、ふれあい遊びや製作活動を通じて保護者同士の交流も促している。地域における子育て支援においては、地域への認知度をさらに高め頼られる存在になれるように取り組むことが期待される。

法人理念のさらなる実現に向けた職員の目的意識の強化が期待されている

複数施設をもつ法人として、日常的な運営のノウハウは確立されておりマニュアル化されている。園長によれば、職員の目的意識が日々の業務の遂行に向きがちであるが、業務としてできていればよいというところから一歩前進させたいと考えている。指導的な声掛けにならないように配慮しながら、目指す保育に対して職員に問いかけることで職員の自主的な目的意識を高めたいと考えている。さらに様々な事象に対して前向きに経験を重ねることで何事にも柔軟に対応できるスキルを身に付けてほしいと期待している。

地域との連携を強化し子どもの可能性を広げる取り組みが期待される

地域の子育て世帯の方が幅広く参加できる「保育体験・子育て相談会」を定期的で開催し、ふれあい遊びや製作活動を通じて園の設備や特徴的な保育を体験したり、子育てに関する悩みへの相談に応じることで、地域における子育て支援を行っている。日常的な地域との関わりとしては、お散歩時に近隣住民の方々と挨拶を交わしたりするほか、行事等で地域の小学校へ行き、積極的に小学校と連携を図っている。新型コロナの終息後を見据え、子どもたちの交流や体験の幅を広げる取り組みにより、子どもの可能性を一層刺激できるような対応が期待される。

(評価を受けて、受審事業者の取り組み)

福祉サービス第三者評価の機会を頂き、開園から3年間、公共性を担う保育園として会社の保育理念に準じた保育運営に努めた上で、保護者のみなさまから温かなご理解を頂けていることが確認出来たのは、職員にとって、大きな励みとなりました。その一方で、現任施設長は、会社理念、現在の保育運営と地域実情を踏まえ、自園で展開されている保育をより開かれた保育運営に変容する努力をしていきたいと考えています。それは、おこさまの姿(成長)を軸に、よりロジカルに、より細やかに情報発信を試み、保護者のみなさまからの反応に対しても、専門性を有したスピーディーな回答が図れる体制構築を目指すことでもあります。誠実なスモールステップを繰り返せる保育士の見識と胆力を育て、おこさまの笑顔が溢れる園であり続けたいと考えております。

福祉サービス第三者評価項目（保育所等）の評価結果

大項目	中項目	小項目	項目	標準項目		
				■実施数	□未実施数	
I 福祉サービスの基本方針と組織運営	1 理念・基本方針	理念・基本方針の確立	1 理念や基本方針が明文化されている。	3	0	
			2 理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	3	0	
			3 理念や基本方針が利用者等に周知されている。	3	0	
	2 計画の策定	事業計画と重要課題の明確化	4 事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	6	0	
			5 施設の事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	3	0	
	3 管理者の責任とリーダーシップ	管理者のリーダーシップ	6 理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	5	0	
			4 人材の確保・養成	7 全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	3	0
				8 人事方針を策定し、人事を計画的・組織的にを行い、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	4	0
				9 事業所の就業関係の改善課題について、職員(委託業者を含む)などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	5	0
		10 職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	5	0		
II 適切な福祉サービスの実施	1 利用者本位の保育	利用者尊重の明示	11 施設的全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	4	0	
			12 個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	4	0	
		利用者満足度の向上	13 利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	4	0	
			14 苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	4	0	
	2 教育及び保育の質の確保	教育及び保育の質の向上への取り組み	15 教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上に努めている。	3	0	
			16 提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	4	0	
	3 教育及び保育の開始・継続	教育及び保育の適切な開始	17 保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	2	0	
			18 教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容を利用者に説明し、同意を得ている。	4	0	
	4 子どもの発達支援	教育及び保育の計画及び評価	19 保育所等の理念や保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	4	0	
			20 全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。	5	0	
			21 子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	6	0	
			22 身近な自然や地域社会と関わられるような取組みがなされている。	4	0	
			23 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	6	0	
			24 特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育が適切に行われている。	6	0	
25 在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。			4	0		
26 家庭及び関係機関との連携が十分図られている。			3	0		
	子どもの健康支援	27 子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	4	0		
		28 感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	3	0		
5 安全管理	環境と衛生	30 環境及び衛生管理は適切に行われている。	3	0		
		31 事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	4	0		
		32 地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	5	0		
6 地域	地域子育て支援	33 地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	5	0		
		計	136	0		

保育所等 項目別評価コメント

(利用者は子ども・保護者と読み替えて下さい)

標準項目 整備や実行が記録等で確認できる。 確認できない。

	評価項目	標準項目
1	理念や基本方針が明文化されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・基本方針が法人・保育所等の内部文書や広告媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。 ■ 理念・基本方針から、法人、保育所等が実施する教育及び保育の内容や法人、保育所等の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 ■ 理念・基本方針には、児童福祉法や保育所保育指針の保育所等・教育及び保育に関する基本原則が盛り込まれている。
<p>(評価コメント)</p> <p>理念・方針は事業計画・入園案内・配付リーフレット・ホームページなどに明記しており、経営理念のもと行動指針や社訓、保育理念からも目指す方向や使命が読み取れる内容となっている。向上目標・育成目標には人権擁護や自立支援の精神が盛り込まれている。保育理念として「一人でも多くの子どもが、人間が生まれながれらに持っている素晴らしい力を育むことに喜びを感じ、笑顔と元気が溢れた園を創造すること」と掲げ、子ども達を「未来の力」と位置づけ、将来社会に貢献し活躍できる存在となる為に、「周りの人と関係を築く・周りの人の力になれる・周りの人に応援される」を保育方針とし取り組んでいる。子どもにとってもう一つの家になるように、子ども一人ひとりの要求に耳を傾け、寄り添っていく願いが込められている。</p>		
2	理念や基本方針が職員に周知・理解されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針を事業所内の誰もが見やすい箇所に掲示し、職員配布文書に記載している。 ■ 理念・方針を会議や研修において取り上げ職員と話し合い共有化を図っている。 ■ 理念・方針の実践を日常の会議等で話し合い実行面の反省をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>法人独自で作成した「社史」や「就労の心得」を全職員に配付しており、新規採用者の研修なかで理念・方針についての詳しい説明が行われている。理念や方針は、朝礼で唱和をし、言葉にすることで意識し、何かあった時には振り返れるように園のエントランスに掲示している。また、理念や方針を「理念の因数分解」という呼び方で、職員全員で言葉の意味を深掘りし、解釈を行うことを通して共有している。行動レベルとして今後の業務でどのように活かすのかを考え、実行後の振り返りを行い、理念に基づいた保育が実現できるように努めている。</p>		
3	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 契約時等に理念・方針が理解しやすい資料を作成し、分かりやすい説明をしている。 ■ 理念・方針を保護者に実践面について説明し、話し合いをしている。 ■ 理念・方針の実践面を広報誌や手紙、日常会話などで日常的に伝えている。
<p>(評価コメント)</p> <p>利用者への理念や保育方針の理解浸透に向けて、園見学の際にはリーフレットを使用し理念・方針の説明を行っている。入園前の全体説明会では、具体的な内容を入園案内のパンフレットや重要事項説明書で改めて説明し、その後に行う個人面談の中では一人ひとりの質問や疑問に丁寧に答え、周知をはかっている。園だより・ホームページ等では、日常の保育に理念や保育方針をどのような形で取り入れているかを伝えるとともに、毎日更新されているブログでは保育活動や日常の子ども達の様子を報告している。年に2回配布する「AIAIレポート」では、子ども一人ひとりに応じた保育目標に基づいて支援の方法や結果を記載することで、園の方針や取り組みを周知している。</p>		
4	事業計画が適切に策定され、計画達成のため組織的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中・長期事業計画を踏まえて策定された事業計画が作成されている。 ■ 事業計画が具体的に設定され実施状況の評価が行える配慮がなされている。 ■ 理念・基本方針により重要課題が明確にされている。 ■ 事業環境の分析から重要課題が明確にされている。 ■ 現状の反省から重要課題が明確にされている。 ■ 運営の透明性の確保に取り組んでいる。
<p>(評価コメント)</p> <p>首都圏・大阪でグループ園を展開している法人であり、事業計画は本部で作成されたものを基に、施設長が園の状況や環境・職員の意向などを加味し現状に沿った内容のものを作成している。長期的計画や短期的計画を全職員で共通認識し、PDCAサイクルの一連の流れを繰り返し行い、保育の質の向上に努めている。また、園運営の基盤となる人材の確保・育成について取り組んでおり、職員一人ひとりに保育向上管理担当を割り振り、それぞれが責任を持って担当業務を遂行できるようにしている。</p>		
5	事業計画等、重要な課題や方針を決定するに当たっては、職員と幹部職員とが話し合う仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各計画の策定に当たっては、現場の状況を把握し、職員等の参画や意見の集約・反映のもとに策定されている。 ■ 方針や計画、課題は会議や研修会等にて説明し、全職員に周知されている。 ■ 年度終了時はもとより、年度途中にあっても、あらかじめ定められた時期、手順に基づいて事業計画の実施状況の把握、評価を行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>千葉県で最多の施設運営を行っている法人であり、運営体制として本社に保育事業本部が置かれている。施設長を対象とした法人の会議(全施設・千葉エリアの月2回実施)にて、法人全体の動向を把握するほか、重要な方針が決定された際は、会議の過程や決定事項が、全職員に理解出来るよう、その都度報告・連絡を行い周知が図られている。また、円滑な園運営に向けて、本部の担当者が年に一回園を訪問し、整備すべき書類の確認、保育状況や保育環境等を、チェックリストを用いて監査している。職員が不明に思っている方針や計画についても直接説明することで職員の理解が進むように取り組んでいる。</p>		

6	理念の実現や質の向上、職員の働き甲斐等に取り組み指導力を発揮している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 理念・方針の実践面の確認等を行い、課題を把握し、改善のための具体的な方針を明示して指導力を発揮している。 ■ 職員の意見を尊重し、自主的な創意・工夫が生まれやすい職場づくりをしている。 ■ 研修等により知識・技術の向上を図り、職員の意欲や自信を育てている。 ■ 職場の人間関係が良好か把握し、必要に応じて助言・教育を行っている。 ■ 評価が公平に出来るように工夫をしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>毎月の職員会議のほか、カンファレンス会議、リーダー会議などを行うことで、保育に対する各クラスの要望や提案を聞く機会を設けている。また、保育の様子を動画に撮りカンファレンスを行うことで自主的な創意・工夫が生まれやすい職場づくりをしている。実行計画は施設長を含む全体で評価・反省を行い課題の改善に努めている。</p> <p>研修については個人別育成計画をもとに個々の希望に沿った研修を受けられるよう支援しているほか、市からの研修案内等のバックアップがあり、該当する職員が研修に参加している。職場の人間関係の状況の把握にも努め、働きやすい職場づくり、得意な分野を活かせるような仕組みづくりに取り組んでいる。職員の評価も法人マネージャーや系列園の施設長が来園し、評価が偏らないように職員面談を行っている。</p>		
7	全職員が遵守すべき法令や倫理を明示し周知している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 遵守すべき法令や倫理を文書化し、職員に配布されている。 ■ 全職員を対象とした、法令遵守と倫理に関する研修を実施し、周知を図っている。 ■ プライバシー保護の考え方を職員に周知を図っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>新入職員を対象としたスタートアップ研修が実施されており、保育業務従事者として守るべき倫理及び法令遵守に関する研修等を行っている。職員には行動指針や倫理・道徳などについて記載されているマニュアル本「経験年数に応じた教科書」と手帳型の「社史」、全国保育士会倫理綱領を配布しているほか、理念や行動指針を含めた文章を施設内に掲示し、日常的に確認できるようにしている。また、人権擁護のためのセルフチェックなどを実施している。法人には「コンプライアンス違反通報窓口」が設置されており、匿名でも相談できるようになっている。虐待防止やプライバシー保護・個人情報の取り扱い方についてはマニュアルを用意して、職員による不適切な対応が行われないように研修を実施し、全職員に周知徹底を図っている。</p>		
8	人事方針を策定し、人事を計画的・組織的に行い、職員評価が客観的な基準に基づいて行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材確保・定着・育成の方針と計画を立て実行している。 ■ 職務の権限規定等を作成し、職員の役割と権限を明確にしている。 ■ 評価基準や評価方法を職員に明示し、評価の客観性や透明性の確保が図られている。 ■ 評価の結果について、職員に対して説明責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>法人で人事方針を策定し、キャリアパスフレーム(職能等級表)や共通基礎課程という人材育成の計画が明確にされており、eラーニングで受講する事になっている。ほかにもそれぞれのキャリアにあわせた研修制度が充実している。人事考課については職員面談の際に、自己評価の内容と園の評価の差異を職員が納得のいくように丁寧に説明することで、職員に対して説明責任を果たしている。職員の異動・配置等については、本人の意向を調査したうえで、本部が計画的に進める体制となっている。</p>		
9	事業所の就業関係の改善課題について、職員(委託業者を含む)などの現場の意見を幹部職員が把握し改善している。また、福利厚生に積極的に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 担当者や担当部署等を設置し職員の有給休暇の消化率や時間外労働のデータを、定期的にチェックしている。 ■ 把握した問題点に対して、人材や人員体制に関する具体的な改善計画を立て実行している。 ■ 職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。 ■ 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生事業を実施している。 ■ 育児休暇やリフレッシュ休暇等の取得、ワーク・ライフ・バランスに配慮した取り組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>職員の人事管理や給与計算は、本社経営管理課が主管して、各保育所の事務的な負担を軽減している。勤務体制はシフト制となっているほか、勤務状況については施設長が毎月法人労務課へ報告している。時間外勤務などが多い、気になる職員には抱えている仕事をヒアリングし、事務時間の確保等を行っている。有給休暇の取得については職員の希望日でまんべんなく消化できるよう努めており、職員配置に問題がないことを確認して施設長が承認している。また、働きやすさや働きがいについて相談しやすい環境づくりを心がけており、3か月に1度施設長と全職員の1on1ミーティングを実施している。新卒の職員には専属の先輩職員を共育係として配置し、相談しやすい環境で定期的に面談を行っている。</p>		
10	職員の教育・研修に関する基本方針が明示され、研修計画を立て人材育成に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中長期の人材育成計画がある。 ■ 職種別、役割別に能力基準を明示している。 ■ 研修計画を立て実施し、必要に応じて見直している。 ■ 個別育成計画・目標を明確にしている。 ■ OJTの仕組みを明確にしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>職員一人ひとりにキャリアアップのための個人別育成計画が作成されており、それを基に年度単位の研修計画が立てられ、研修に参加しスキルアップを図る機会が設けられている。さらに、法人で必要と考えるスキルが身につくよう、年間で計画された内容をeラーニングで学べる環境となっている。また、保育士のスキルは、知識のほかに経験によって習得されるものが多いことから、新卒社員の一人ひとりに対して先輩社員を専任の共育担当者として位置づけ、きめ細かく指導・育成する環境を整備している。ミーティングを実施しながら仕事における問題解決のサポートだけでなく、仕事以外の相談事や悩みも共有し、社会人一年目のハードルを乗り越えたと共に、新卒社員・共育担当両方の成長・質の向上に繋げている。</p>		

11	全職員を対象とした権利擁護に関する研修を行い、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子供の尊重や基本的人権への配慮について勉強会・研修を実施している。 ■ 日常の援助では、個人の意思を尊重している。 ■ 職員の言動、放任、虐待、無視など行われることの無いように、職員が相互に振り返り組織的に対策を立て対応している。 ■ 虐待被害にあった子どもがいる場合には、関係機関と連携しながら対応する体制を整えている。
<p>(評価コメント)</p> <p>保育所保育指針に基づき、子どもたちの最善の利益に配慮した保育環境を提供することとし、職員は法の基本方針や児童権利宣言についての外部研修を受講している。日常の援助では子どもの基本的人権を尊重することを伝えるほか、子どもの気持ちに寄り添い、思いや欲求を満たすよう、施設長が現場に入って実践を通じて職員に伝えている。事例をもとに考えたりする機会を設けているほか、虐待となる行為についてマニュアルで詳しく説明している。職員は虐待チェックシートによって定期的に自身の保育について振り返りを行っている。また、家庭での虐待の疑いがある際は、自治体と児童相談所に通報し、関係機関と連携しながら対応している。</p>		
12	個人情報保護に関する規定を公表し徹底を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 個人情報の保護に関する方針をホームページ、パンフレットに掲載し、また事業所等内に掲示し実行している。 ■ 個人情報の利用目的を明示している。 ■ 利用者等の求めに応じて、サービス提供記録を開示することを明示している。 ■ 職員(実習生、ボランティア含む)に研修等により周知徹底している。
<p>(評価コメント)</p> <p>個人情報保護規定を定め、保護者には入園案内・重要事項説明書にて、個人情報の使用目的と保護者の同意を得ずに第三者に提供しないこと等を記述し、入園説明会の際に口頭でも説明をして同意を得ている。更に園だよりなどにも掲載する事で周知を図っている。また、ブログ等に掲載する写真についても入所時に説明を行い、必ず承諾を得るようにしている。職員に対しても、スタートアップ研修でコンプライアンス研修を行い、理解浸透に取り組んでいるほか、個人情報保護のマニュアルを事業所に置き、周知徹底が図られている。実習生やボランティアに関しても、オリエンテーション時に個人情報保護についての説明を行っている。</p>		
13	利用者満足度の向上を意図した仕組みを整備し、取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 利用者満足度を把握し改善する仕組みがある。 ■ 把握した問題点の改善策を立て迅速に実行している。 ■ 利用者・家族が要望・苦情が言いやすい雰囲気を作っている。 ■ 利用者等又はその家族との相談の場所及び相談対応日の記録がある。
<p>(評価コメント)</p> <p>保護者参加の行事後(運動会、夏祭り、卒園式等)、保育園利用全体のアンケート調査を実施しており、意見を集計して主だった意見に対する回答を伝えているほか、次年度の活動に活かしている。保護者・施設長・第三者により運営委員会を開催し、保護者の意見を取り入れ運営に活かしている。また、保護者会・保育参観では多くの保護者が参加しており、日常的な保育の取り組みを見てもらうだけでなく、子どもと一緒に活動する保育参加の機会にもなっている。日頃から保護者とのコミュニケーションを大切にしてい、登降園時には施設長も出来るだけ対応に当たり、担任以外の保育士も積極的に声をかけるよう努めている。</p>		
14	苦情又は意見を受け付ける仕組みがある。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者に交付する文書に、相談、苦情等対応窓口及び担当者が明記され説明し周知徹底を図っている。 ■ 相談、苦情等対応に関するマニュアル等がある。 ■ 相談、苦情等対応に関する記録があり、問題点の改善を組織的に実行している。 ■ 保護者に対して苦情解決内容を説明し納得を得ている。
<p>(評価コメント)</p> <p>苦情解決制度を導入しており、施設長を苦情解決責任者、主任保育士・各担任保育士を苦情受付担当とし、公平な立場による判断と個々のケースに配慮した適切な対応が取れるよう第三者委員も設置している。周知については、入園案内・重要事項説明書への掲載、玄関での掲示、入園説明会の際には口頭にて丁寧な説明がなされている。また、本部に相談窓口を設け、保護者がいつでも連絡できるよう法人宛の葉書の配付も行われている。苦情が発生した際は、法人のグループネットワークを通じて共有を図り、改善に向けて対して全職員に周知して対応を行っている。</p>		
15	教育及び保育内容について、自己評価を行い課題発見し改善に努め、教育及び保育の質の向上を図っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育及び保育の質について自己評価を定期的に行う体制を整備し実施している。 ■ 教育及び保育の質向上計画を立て実行し、PDCAサイクルを継続して実施し恒常的な取り組みとして機能している。 ■ 自己評価や第三者評価の結果を公表し、保護者や地域に対して社会的責任を果たしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>提供している保育が、より質の高いものになるようにするために年に2回の自己評価シートを実施するほか、法人内監査での評価が行われ課題となる部分については改善に努めている。また、保育理念をもとに行動レベルでの保育の質の向上計画の毎月の振り返りと目標に対する取り組みを振り返る面談を3か月ごとに実施している。第三者評価は今年度初回の受審となり現在のところ公表には至っていないが今年度の結果は公表予定である。</p>		

16	提供する教育及び保育の標準的実施方法のマニュアル等を作成し、また日常の改善を踏まえてマニュアルの見直しを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ■業務の基本や手順が明確になっている。 ■分からないときや新人育成など必要に応じてマニュアルを活用している。 ■マニュアル見直しを定期的実施している。 ■マニュアル作成は職員の参画のもとに行われている。
(評価コメント) 日常の保育業務、職場のルールなどが明確に示されているマニュアルを職員全員が手に取りやすい場所に置いてあり、現場の状況や季節に合わせて必要なマニュアルは読み返し、実際の保育に不安なく当たることが出来るようにしている。日常の業務においてわからない事項があった場合にも、マニュアルに記載されている内容を確認する等の活用が図られている。園独自のルールは年度初めのオリエンテーションで読み合わせ周知し、職員の参画の下、必要に応じて、改善・追加している。また、マニュアルは法人全体で作成されるが定期的な見直しの際には、現場の声を施設長が法人に届ける方法がとられている。		
17	保育所等利用に関する問合せや見学に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ■問合せ及び見学に対応できることについて、パンフレット、ホームページ等に明記している。 ■問合せ又は見学に対応し、利用者のニーズに応じた説明をしている。
(評価コメント) 入園申し込みは自治体経由であり、市のホームページ、広報等でも園情報を確認できる。園独自の取り組みとして、法人全体のホームページを使いやすい形で用意しており、園のパンフレットも法人全体の一体感を活かしたイメージのよいものを備えている。園見学は、できるだけ個別の対応を心がけ、電話予約が望ましいが、希望者の要望に従い随時行っている。また、定期的に保育園体験会及び子育て相談会を開催して入園希望者だけでなく子育てに悩みを持つ保護者にも情報提供する工夫をしている。さらに体験会にて、保育内容や運営方針、英語保育や体操保育、学習プログラムなどの特色を実感できるような機会を設けている。		
18	教育及び保育の開始に当たり、教育及び保育方針や内容等を利用者に説明し、同意を得ている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育の開始にあたり、理念に基づく教育及び保育方針や内容及び基本的ルール等を説明している。 ■説明や資料は保護者に分かりやすいように工夫している。 ■説明内容について、保護者の同意を得るようにしている。 ■教育及び保育の内容に関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している。
(評価コメント) 入園前説明会の祭に、ていねいに説明することを大切にしている。入園案内や重要事項説明書を配付し、園の理念や保育方針・年間行事・日課など、園の取り組みや考え方などについて時間をかけて詳細に説明する。保護者には、納得した上、同意書への署名捺印を徴している。必要な入園書類は、連番で管理できる法人共通の書式を用いており、間違いが起りにくい。入園時にもあらためて個別に面談をして意向を確認する。結果は面談表、児童表に記載し、全職員に共有して、一人ひとりへのきめ細かい保育につながるよう配慮している。		
19	保育所等の理念や教育及び保育方針・目標に基づき全体的な計画が適切に編成されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画は児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて作成している。 ■全体的な計画は、教育及び保育の理念、方針、目標及び発達過程などが組み込まれて作成されている。 ■子どもの背景にある家庭や地域の実態を考慮して作成されている。 ■施設長の責任の下に全職員が参画し、共通理解に立って、協力体制の下に作成されている。
(評価コメント) 法人全体で創業の理念を大切にする気風が育っており、その理念や目標に基づいた各園での実践を代表取締役が学会論文として発表するなど、積極的な取り組みをしている。全体的な計画も法人全体で共通のものとして掲げられており、職員会議、幼児会議等、機会ある毎に職員に周知している。園の年間カリキュラムに限らずたとえば月案、週案等も、そうした法人の考え方を活かすよう意識して策定している。地域との関わりも大切にしており保護者支援や地域交流についても計画を立てる。それらは全て、年度末に振り返りを行い、職員間で目標の達成状況や課題点を明確に共有するようにしている。		
20	全体的な計画に基づき具体的な指導計画が適切に設定され、実践を振り返り改善に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■全体的な計画に基づき、子どもの生活や発達を見通した長期的な指導計画と短期的な指導計画が作成されている。 ■乳児、1歳以上3歳未満児、障害児等特別配慮が必要な子どもに対しては、個別計画が作成されている。 ■発達過程を見通して、生活の連続性、季節の変化を考慮し、子どもの実態に即した具体的なねらいや内容が位置づけられている。 ■ねらいを達成するための適切な環境が構成されている。 ■指導計画の実践を振り返り改善に努めている。
(評価コメント) 法人全体として理念実現の方向性を打ち出して運営されており、その全体的な計画を踏まえた上で園の独自性も加えて年間カリキュラム、月案・週案を作成している。日々のクラス単位の取り組み、また、次月計画等、幼児会議や職員会議で共有・検討し連携した保育ができるよう配慮している。3歳児未満では、個別計画を成長や発達をみながら作成して保育に活かしている。また、特に配慮が必要な子どもについては、年齢に関わらず個別の計画を立て、職員の共通認識のもとで個々の状態に応じた保育を提供している。月案は、環境構成も記載することになっており、ねらいの達成に必要であれば環境構成を見直して再構成することもある。振り返りについては、子ども一人ひとりの発達過程を個別に記録し、指導計画に照らして検討し、改善に努めている。		

21	子どもが主体的に活動できる環境が整備されている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが安心感と信頼感をもって活動できるよう、子どもの主体としての思いや願いを受け止めている。 ■子どもの発達段階に即した玩具や遊具などが用意されている。 ■子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。 ■好きな遊びができる場所が用意されている。 ■子どもが自由に遊べる時間が確保されている。 ■教育及び保育者は、子どもが主体性を発揮できるような働きかけをしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>法人設立時に掲げた理念とともに独自の大型遊具を開発して各園で使用しており、パンフレット等でも前面に押し出している。屋外のその遊具は、特に4～5歳児の主体的な活動に役立っている。各クラスの部屋も、子どもが自主的に興味のある遊びで遊べるよう、好きな玩具を自由に棚から取り出して遊べるようにしている。ままごとコーナーや製作コーナー、絵本コーナー、ブロックコーナーなどを作りながらも、遊びが1つ1つ独立しないように、保育士が遊びの展開や連携を促すように関わっている。また、玩具は、子どもの様子や発達に応じて見直し、入れ替えたり追加するように心がけている。</p>		
22	身近な自然や地域社会と関われるような取組みがなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもが自然物や動植物に接する機会を作り、教育及び保育に活用している。 ■散歩や行事などで地域の人達に接する機会をつくっている。 ■地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。 ■季節や時期、子どもの興味を考慮して、生活に変化や潤いを与える工夫を日常教育及び保育の中に取り入れている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園のある地域は、街並みにゆとりがあり、公園や河川敷遊歩道など比較的自然に恵まれている。園長自らヤモリを発見したことがあるという。また、夏野菜を中心に栽培し、世話、観察、収穫など行っており、季節感や命の大切さなどを育む取り組みとなっている。基本的に戸外遊びは行いやすい環境であり「お散歩マップ」を活用して積極的に出かけている。地域の人々へのあいさつ等も自然に身につくようにしている。一方、大きな街道に面していることもあり、交通マナー、安全意識については繰り返し注意喚起を行って事故等の防止に努めている。その点も含め外出は社会性を養う機会ともなっている。</p>		
23	遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関係をより良くするような適切な言葉かけをしている。 ■けんかやトラブルが発生した場合、危険のないように注意しながら、子供達同士で解決するように援助している。 ■順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。 ■子どもが役割を果せるような取組みが行われている。 ■子どもが自発性を発揮し、友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■異年齢の子どもの交流が行われている。
<p>(評価コメント)</p> <p>子ども同士の人間関係の構築や成長には、保育士の関わり方や声掛けの言葉遣いが重要な要素であるとの認識に基づき、その具体的な方法等、職員会議や定期的なカンファレンスを通じてケース検討、研修を実施している。自然にルールに気持ちが行くような遊びを取り入れながら、遊びや生活の中で少しずつルールを身に付けられるよう配慮している。子ども同士のトラブルがあった際にも、成長と共に子ども同士で考えて話し合い解決できるように見守ることを基本にししながら、年齢に合わせて保育者が気持ちを代弁し、仲立ちとなるなど、お互いの心情をくみ取りながら解決できるようにしている。</p>		
24	特別な配慮を必要とする子どもの教育及び保育	<ul style="list-style-type: none"> ■子ども同士の関わりに対して配慮している。 ■個別の指導計画に基づき、きめ細かい配慮と対応を行い記録している。 ■個別の指導計画に基づき、保育所等全体で、定期的に話し合う機会を設けている。 ■障害児教育及び保育に携わる者は、障害児教育及び保育に関する研修を受けている。 ■必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■保護者に適切な情報を伝えるための取組みを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>子ども一人ひとりの発達過程を記録し、職員会議や昼礼やカンファレンスなどの時間に個々の子どもの様子について共有している。特別な配慮を必要とする子どもへの支援も個別の指導計画を立案して、発達の度合いに応じた支援を実施し、記録して対応している。療育の領域の関わりが必要な子どもも通園しており、行政の発達巡回を受けて助言を得る、療育センター等の専門機関に繋げる等、必要な連携をとるほか、法人内で別に運営している発達支援事業所の専門職にも相談してより適切な配慮ができるようにしている。また、保護者とも密に連携を取り、必要に応じ面談の時間を持つようにしている。</p>		
25	在園時間の異なる子どもに対して配慮がなされている。	<ul style="list-style-type: none"> ■引き継ぎは書面で行われ、必要に応じて保護者に説明されている。 ■担当職員の研修が行われている。 ■子どもが安心・安定して過ごせる適切な環境が整備されている。 ■年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。
<p>(評価コメント)</p> <p>規模の大きくない園の強みを活かし、柔軟な保育体制で在園時間の異なる子どもに配慮している。延長保育の時間帯は、シフト制により全職員が関わるので、0～2歳児クラス、3歳児以上のクラスに分けて過ごし、時間や子どもの数に応じて最後は1つのクラスで過ごしている。長時間の利用による園児の疲労等も考慮し、水分補給を行いながら、横になれるマットを用意するなど静かでゆったりと過ごせる空間を提供できるように心がけている。担当職員等の位置づけは不必要で、全職員が子ども一人ひとりを把握できるよう、引継ぎ事項は伝達事項の用紙に記載し、アプリのチャットによる連絡も活用して保護者にその都度伝えている。</p>		

26	家庭及び関係機関との連携が十分図られている。	<ul style="list-style-type: none"> ■一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、子どもの発達や育児などについて、個別面談、教育及び保育参観、参加、懇談会などの機会を定期的に設け、記録されている。 ■保護者からの相談に応じる体制を整え、相談内容が必要に応じて記録され上司に報告されている。 ■就学に向けて、保育所等の子どもと小学校の児童や職員同士の交流、情報共有や相互理解など小学校との積極的な連携を図るとともに、子どもの育ちを支えるため、保護者の了解のもと、認定こども園園児指導要録及び保育所児童保育要録などが保育所等から小学校へ送付している。
<p>(評価コメント)</p> <p>保護者との連携のため、情報発信の手段として、直接対話、文書、専用アプリ等のオンライン等、重層的な手段を用いている。日常的な送迎時には保護者と職員が直接対話し、その都度子ども様子や連絡事項を伝えコミュニケーションを図っているというが、異例なほど保護者からの評価が高いことが注目される。保護者会、保育参加、保育参観を年に1回以上開催し、クラスの様子や今後の保育について伝え、保護者同士の交流も持てるようにしている。関係機関として、近隣の小学校と修学関連の連携でも、子どもの学校訪問や小学1年生との手紙のやりとりなどを行っている。年長児担当職員は小学校訪問で教諭と直接対話する、保育要録を修学予定校に送る等、やはり重層的な手段で小学校接続への取り組みを行っている。</p>		
27	子どもの健康状態、発育、発達状態が適切に把握し、健康増進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもの健康に関する保健計画を作成し、心身の健康状態や疾病等について把握・記録され、嘱託医等により定期的に健康診断を行っている。 ■保護者からの情報とともに、登所時及び教育・保育中を通じて子どもの健康状態を観察し、記録している。 ■職員に乳幼児突然死候群(SIDS)に関する知識を周知し必要な取り組みを行い、保護者に対して必要な情報を提供している。 ■子どもの心身の状態を観察し、不適切な養育の兆候や、虐待が疑われる場合には、所長に報告し継続観察を行い記録している。
<p>(評価コメント)</p> <p>日常的な健康チェックとして子どもの登園時には、保護者からの申し送りのほかに、視診による健康観察及び検温を行い、保育日誌にその内容を記録している。また、毎月身体測定を行いカウプ指数の把握を行っており、年度末には成長記録のグラフを保護者に渡している。保育中も子どもの様子に合わせて検温し、午睡後も必ず検温し健康観察している。専用のSIDSチェックアプリではタブレットに記録されるシステムを導入している。全園児、午睡時のモニタリングを実施し、データと職員の視診を併用して安全の確保に努めている。嘱託医による年に2回の内科健診と年1回の歯科検診を実施しているが、事前に保護者からの相談事があれば書面で集めておき、嘱託医が応答している。</p>		
28	感染症、疾病等の対応は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■教育及び保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態等に応じて、保護者に連絡するとともに、適宜、嘱託医や子どものかかりつけ医等と相談し、適切な処置を行っている。 ■感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には、必要に応じて嘱託医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者や全職員に連絡し、協力を求めている。 ■子どもの感染・疾病等の事態に備え、医務室等の環境を整え、救急用の薬品、材料等を常備し、適切な管理の下に全職員が対応できるようにしている。
<p>(評価コメント)</p> <p>国全体では新型コロナウイルスへの意識が薄れつつあるが、園では油断しないよう対応を続けている。保育中に体調が悪くなった子や傷害が発生した際には、子どもの状態に応じ、保護者に連絡をして状況、状態を伝え必要な処置を行う。医務スペースは、目が届きやすいよう事務所の一角に設けてあり、救急用の薬品や材料を常備し、管理者をはじめ全職員が対応できるようにしている。また、1年を通じて水分補給を充分にするよう徹底し、職員、子どもの手洗いうがいを励行している。感染症に関する自治体・嘱託医等からの情報は、アプリのチャット機能や園内への掲示・園だより等により、保護者に伝えている。感染症に関する園の状況についても、同様に保護者に周知し、予防、蔓延防止、収束に努める。</p>		
29	食育の推進に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ■食育の計画を作成し、教育及び保育の計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。 ■子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材や調理する人への感謝の気持ちが育つように、子どもと調理員との関わりなどに配慮している。 ■体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもなど、一人一人の子どもの心身の状態等に応じ、嘱託医、かかりつけ医等の指示や協力の下に適切に対応している。 ■食物アレルギー児に対して誤食防止や障害のある子どもの誤飲防止など細かい注意が行われている。 ■残さず食べることや、偏食を直そうと強制したりしないで、落ち着いて食事を楽めるように工夫している。
<p>(評価コメント)</p> <p>食育に関する計画は、栄養士と調理師を中心として、1歳児から5歳児まで各クラスの保育士と連携を図りながら立案し、子どもの興味、関心に合わせた内容になるよう取り組んでいる。また、園庭にプランターを用意して季節野菜を栽培し、収穫から調理、喫食までを一連の流れとして取り組み、食育推進に努めている。また、調理師も積極的に食事時間に保育室に入り、子どもの喫食状況を見、毎月の給食会議で保育士と情報交換をして共有する。個別の対応が必要な子には、保育士と栄養士、調理師間で話し合い、適切な対応をする。アレルギー児には、個別に作成した献立表を保護者見てもらい、承認を得て、除去または代替え食品で対応している。マニュアルに従って色分けされたトレーで配膳するとともに、給食担当と保育士が情報共有することで、誤飲・誤食がないよう万全を期している。</p>		

30	環境及び衛生管理は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持するとともに、施設内外の設備及び用具等の衛生管理に努めている。 ■子ども及び職員が、手洗い等により清潔を保つようにするとともに、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。 ■室内外の整理、整頓がされ、子どもが快適に過ごせる環境が整っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>衛生管理マニュアルに従い、部屋の明るさ、温度・湿度ともに対応できるよう、シーリングファン、加湿器、空気清浄機、エアコンに加え床暖房も各部屋に装備しており、子どもが快適に過ごせるよう環境を整えている。照明も間接照明を随所に用いてまぶしくなく明るさを享受でき、さらに乳児室には明かり取りの窓も設備して、自然光で過ごすことができるようにしている。清掃は日々職員が分担して行うほか、選任のボランティアが休まず来園してアレルギーのある子どもにも埃等の少ない環境を提供している。玩具消毒も毎日実施している。換気に関しては清掃時と寝具の手入れ時に行う習慣になっている。食事の前や遊んだ後の手洗いがい、アルコール消毒を習慣化することも重視しており、職員も同様に30秒手洗いを実施している。</p>		
31	事故発生時及び事故防止対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■事故発生時の対応マニュアルを整備し職員に徹底している。 ■事故発生原因を分析し事故防止対策を実施している。 ■設備や遊具等保育所等内外の安全点検に努め、安全対策のために職員の共通理解や体制づくりを図っている。 ■危険箇所の点検を実施するとともに、外部からの不審者等の対策が図られている。
<p>(評価コメント)</p> <p>園長を始め、職員はインカムを常に身につけている。子どもの外出に際して出発と帰着の報告が、実地調査中にもインカムで行われていた。子どもがいまどのような状況なのかを職員全体が把握しやすいシステムを日常的に使用しており、万一事故の際にも正確な一次情報が行き渡りやすいといえる。園外散歩記録と点呼表も併用している。事故対応マニュアルは法人全体で整備され園ごとのローカルルールも加えられている。事故発生時には事故報告書を提出するが、法人にも報告して経験の蓄積として総合的な改善策の提案につなげている。ヒヤリハットに関しても都度職員間で共有する体制ができています。</p>		
32	地震・津波・火災等非常災害発生時の対策は適切に行われている。	<ul style="list-style-type: none"> ■地震・津波・火災等非常災害発生に備えて、役割分担や対応等マニュアルを整備し周知している。 ■定期的に避難訓練を実施している。 ■避難訓練は消防署や近隣住民、家庭との連携のもとに実施している。 ■立地条件から災害の影響を把握し、建物・設備類の必要な対策を講じている。 ■利用者及び職員の安否確認方法が決められ、全職員に周知されている。
<p>(評価コメント)</p> <p>地域は海に近いことから、特に津波対策について検討を繰り返している。行政の指定する第一避難場所、第二避難所があるが、距離の差や坂道の有無など子どもの避難しやすさを考えて順位を入れ替えるなどを提案中である。非常災害時に備えての役割分担は、地震・津波・火災等に応じて明確化されており、毎月、さまざまなシミュレーションで避難訓練を実施している。うち、年に2回は消防署員立ち合いのもとで総合避難訓練を行う。全園児が避難場所まで移動する。メール一斉配信での情報発信、ブログに発表することによる周知を主に行っている。多層的な連絡手段をテストに用いて災害時の通信障害に備えている。防災備蓄品に関しては、資器材及び水・軽食等を園児及び関係者3日分以上確保している。</p>		
33	地域ニーズを把握し、地域における子育て支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ■地域の子育てニーズを把握している。 ■子育て家庭への保育所等機能を開放(施設及び設備の開放、体験保育等)し交流の場を提供し促進している。 ■子育て等に関する相談・助言や援助を実施している。 ■地域の子育て支援に関する情報を提供している。 ■子どもと地域の人々との交流を広げるための働きかけを行っている。
<p>(評価コメント)</p> <p>街としても新しいため、コミュニティの未発達な地域であり、地域ニーズの把握には積極的な情報収集が必要であることを園として意識している。機会ある毎に近隣の小学校と情報交換することや、外出の際に地域の社会資源を訪ねてコミュニケーションを図ることで、ニーズの把握に努めている。地域における子育て支援を念頭に、園主催の「保育体験会子育て相談会」を定期的で開催している。地域の子育て世代に呼び掛け、保育園に実際に足を運んでいただき、ふれあい遊びや製作などを親子で体験したり、子育てに関する悩みの相談をしたり、といったイベントである。</p>		